

陽甲二九五

昭和十五年九月三十日

昭和十五年九月三十日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

勞働大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

總力戰研究所官制制定

ノ件外ニ件命ニ依リ

起案上申ス依テ別紙ノ通關議決定セラレ可然ト

七

357

認ム

勅令案

別紙ノ通

358

朕總力戰研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十五年九月三十日

内閣總理大臣

勅令第六百四十八號

總力戰研究所官制

第一條 總力戰研究所ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ國家總力戰ニ關ス  
ル基本的調査研究及官吏其ノ他ノ者ノ國家總力戰ニ關スル教育訓練  
ヲ掌ル

第二條 總力戰研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

359



ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

361

理由

近代戦ハ武力戦ノ外思想、政略、經濟等ノ各分野ニ互ル全面的國家總  
力戦ナルニ鑑ミ總力戦ニ關スル基本的研究ヲ行フト共ニ之ガ實施ノ衝  
ニ當ルベキ官吏其ノ他ノ者ノ教育訓練ヲ行フベキ機關トシテ總力戦研  
究所ヲ設置スルノ要アルニ依ル

271



朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

昭和十五年九月三十日

内閣總理大臣

勅令第六百四十九號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第八條中「對滿學務局次長」ノ次ニ「總力戰研究所長」ヲ、「内閣情報部情報官」ノ次ニ「總力戰研究所員」ヲ加フ

第十四條中「興亞院電信官」ノ次ニ「總力戰研究所員」ヲ加フ

別表第一表内閣ノ部中興亞院調査官ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

263





理由

總力戰研究所設置ニ件と其ノ高等官職員ニ付官等俸給ノ定テ爲スノ必要アルニ依ル

505


朕現役ニ在ル陸海軍武官ニシテ總力戰研究所ノ所員ニ專任セラレタル  
者ノ分限ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

昭和十五年九月三十日

内閣總理大臣

陸軍大臣

海軍大臣

勅令第六百五十號

現役ニ在ル陸海軍武官ニシテ總力戰研究所ノ所員ニ專任セラレタル者

ハ現役トス

216

前項ニ規定スル者ハ陸海軍ニ於テ之ヲ定員外ト爲シ陸海軍ノ在職者ニ  
關スル規定ヲ適用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸海軍省  
311

理由

總力戰研究所ノ所員ニハ其ノ特殊事情ニ鑑ミ陸軍又ハ海軍ノ現役武官  
ヲモ之ニ専任スルノ必要生ズベキヲ以テ其ノ者ハ之ヲ定員外トシ尙現  
役ニ留ラシムルノ要アルニ依ル

三照

# 高等官官俸給令

昭和三年三月  
三月十四日  
内閣府令  
第五十八號

第八條 轉任支官ノ俸給ハ別ニ定ムルコトヲ除クノ外左ノ如シ

- 郵務局長
- 海陸軍部事務局長
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官

年俸 二級 五千八百圓

- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官

年俸 二級 四千六百五十圓

第十四條 別表第二表第一級ニ依ル官俸左ノ如シ

- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官
- 海陸軍部事務官

369

修照

高等官官等俸給令

昭和二十三年三月廿九日  
令 第四百三十三号

(勅令第一八四号)

(第一号)

高等官官等俸給表

階級	官等									
	視	一	二	三	四	五	六	七	八	九
内										
外										
職										
教										

390





参照

○昭和十二年勅令第六百十二號  
(現役ニ在ル陸海軍武官ニシテ  
企畫院ノ部長又ハ調査官ニ專任  
セラレタル者ノ分限等ニ關スル  
件)

昭和十二年十一月二十五日  
勅令第六百十二號

現役ニ在ル陸海軍武官ニシテ企畫院ノ部長又ハ調査官ニ專任セラレタル者ノ分限等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
現役ニ在ル陸海軍武官ニシテ企畫院ノ部長又ハ調査官ニ專任セラレタル者ハ現役トス  
前項ニ規定スル者ハ陸海軍ニ於テ之ヲ定員外ト爲シ陸海軍ノ在職者ニ關スル規定ヲ適用ス

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十二年勅令第九十八號ニ之ヲ廢止ス

102

昭和十五年年度第二款備金支出要求額(確定額)

九八三

科目	支出要求額
總力戰研究所	七七八一八円
俸給	二四一〇三
勲任俸給	八二九
勲任俸給	一四〇
勲任俸給	三二八三
事務費	二一九一
各處	三三七一三
各所修繕費	三三一九六
出張費	一〇〇
雜費	三八三三
雜費	一六六六六

事由

近代戦、武力戦、外思想、政略、経済等、各分野に亘り全面的な國防力戦に於て第二次改組大戦の本特質に於て、展開に支那事変、訂正

392

又亦カカル採相ヲ呈シツツアリ、皇國が有史以來、歴史的に一大轉機ニ降會  
シ庶政百廢ニ亘リ根本的刷新ニ加ヘ甚難ヲ排シテ國防國家體制ヲ確立  
セシガ爲ニ、總力戰ニ関スル其本的研究ヲ行、ト共ニ之が實施、衛ニ當  
ルベキ者、教育訓練ヲ行ニト現下喫緊ノ要務ナリ而シテ右機關ト  
シテ總力戰研究所ヲ急速設置、爲ニ其經營ヲ要スルモ際外ニ生じ  
シ費途ニ付本年度第三隊備金ヨリ支出ヲ要ス。

373



各所修繕  
及國旅費  
雜給及雜費

一〇〇〇  
二八三三  
一六六六

計  
雜批俸給  
那人員給  
料  
等  
職員出張旅費

計  
一三一九六  
六三一六  
二四〇四  
四二一六  
二六五  
二四八  
一六六六

371



總力戰研究所設置に關する経費

科目及区令	單價	数量		合計	追加(除算)
		年	額		
總力戰研究所					
俸					
主任俸		一	五〇九〇	五〇九〇	五〇九〇
所長俸		一	五〇九〇	五〇九〇	五〇九〇
主任俸		三	一五二七〇	一五二七〇	一五二七〇
員長俸		三	一五二七〇	一五二七〇	一五二七〇
主任俸		八	四〇七二〇	四〇七二〇	四〇七二〇
官俸		八	四〇七二〇	四〇七二〇	四〇七二〇
半任俸		五	二五三六〇	二五三六〇	二五三六〇
助任俸		五	二五三六〇	二五三六〇	二五三六〇
書記俸		三	一五二一〇	一五二一〇	一五二一〇
書記俸		三	一五二一〇	一五二一〇	一五二一〇
事務費					
賞					
獎					
記					
官					
俸					
給					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸					
給					
所					
長					
俸					
給					
所					
員					
長					
俸		</			



普通療費	一〇〇〇	二〇	二〇〇〇	二〇	九一七	二四	二二〇
特別療費			三三三〇		四七九		三九五
食料代			三三三〇		四七九		三九五
圖書	五〇	五〇	三〇〇〇	五〇	三三〇	五〇	二五〇
印刷物	二〇	五〇	三〇〇〇	五〇	三三〇	三〇	二五〇
電話料	三五	一〇	三三〇	一〇	三三〇	一〇	二二〇
醫藥用品	五〇〇	一〇	一〇〇〇	二〇	四七九	二〇	三三三
初度調弁費			七五〇		七五〇		七五〇
新任官	三〇〇	四	一〇〇	四	一〇〇	一	三〇〇
奉任官	三〇〇	八	三〇〇	八	三〇〇	三	三〇〇
嘱託官	一〇〇	七	一〇〇	七	一〇〇	三	一〇〇
判任官	一〇〇	八	一〇〇	八	一〇〇		
佐官	五〇	二	五〇	二	五〇		
教室備品	五〇						
講堂備品	五〇						
自動車	五〇	二	一〇〇〇	二	一〇〇〇		

377

各所修繕									
外國旅費									
高等官	四〇〇〇	一三	六〇〇〇	一〇	六〇〇〇	一〇	六〇〇〇	一〇	六〇〇〇
研究員	四〇〇〇	一〇	六〇〇〇	一〇	六〇〇〇	一〇	六〇〇〇	一〇	六〇〇〇
外國旅費									
改米	五〇〇〇								
支南洋									
所員	三〇〇〇								
研究員	五〇〇〇								
雜給									
給與									
冬與午常	一〇〇〇	一〇	一〇〇〇	一〇	一〇〇〇	一〇	一〇〇〇	一〇	一〇〇〇
講師	五〇〇〇								
手書	六〇〇〇	十	六〇〇〇	十	六〇〇〇	十	六〇〇〇	十	六〇〇〇
學費									
給與	四〇〇〇								

378





勅諭第一四三號  
昭和十五年八月三十日

内閣閣甲第二七二號

昭和十五年八月二十九日

部

長 德

内閣書記官長 富田 健



法制局長官 村 瀬 直 養 殿

依 命 通 牒

今般内閣ニ別紙要綱ニ依リ總力哉研究所ヲ設置致度ニ付關係勅令案起

案上申相成度

昭十五ワラ一川

内 閣

187





### 總力戰研究所設置ニ關スル件

近代戰ハ武力戰ノ外思想。政略・經濟等ノ各分野ニ亘ル全面的國家總力戰ニシテ第二次歐洲大戰ハ本特質ヲ如實ニ展開シ支那事變ノ現段階モ亦カカル様相ヲ呈シツツアリ皇國カ有史以來ノ歴史的ニ大轉機ニ際會シ庶政百般ニ亘リ根本的刷新ヲ加ヘ萬難ヲ排シテ國防國家體制ヲ確立セシカ爲ニハ總力戰ニ關スル基本的研究ヲ行フト共ニ之カ實施ノ衝ニ當ルベキ者ノ教育訓練ヲ行フト必要ニシテ此ノ事タルヤ延テ政戰兩略ノ一致並ニ官廳再訓練ニ貢獻スルコト妙カラスト認メラル依テ左記要領ニヨリ總力戰研究所ヲ設置シ總力戰態勢整備ノ礎石タラシムルコト現下喫緊ノ要務タリ

#### 記

- 一、總力戰研究所ハ國家總力戰ニ關スル基本的研究ヲ行フト共ニ總力戰實施ノ衝ニ當ルベキ者ノ教育訓練ヲ行フヲ以テ目的トスルコ

382



ト

- 二 總力戰研究所ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬スルモノトスルコト
- 三 總力戰研究所ハ所長（陸海軍將官又ハ勅任文官）並ニ所員若干名ヲ以テ構成シ各廳並ニ民間ニ於ケル優秀ナル人材ヲ簡拔スルコト
- 四 研究員ハ差當リ文武間及民間ヨリ簡拔シタル者若干名ヲ以テ之ニ充テ其ノ教育期間ハ概ネ一年トスルコト
- 五 研究所ハ至急之ヲ開設シ其ノ所長ヲ以テ總力戰ニ關スル基本的調査研究ヲ行ヒ昭和十六年度ヨリ研究員ノ教育訓練ヲ實施スルモノト豫定スルコト
- 六 本件ニ關スル經費ニ付テハ適當ナル措置ヲ講スルモノトスルコト

383

説 明

一 總力戰研究所設置ノ必要ナル主タル理由

- 1、武力戰以外ノ思想戰、政略戰、經濟戰等ニ關スル基本的調査研究ノ不充分特ニ從來ノ研究ハ動モスレバ消極的防衛戰ニ偏シ積極的攻勢戰ニ於テ缺クル所多キノミナラズ武力、思想、政略、經濟戰等ヲ一元的ニ綜合セル所謂總力戰ニ關スル體系ノ研究ノ不充分ナル現状ヲ打開スルコト
- 2、政戰兩略ノ調整ニ於テ缺クル所多キ現状ニ鑑ミ軍官民ヲ通ジ將來國家樞要ノ地位ニ立ツベキ者ノ教育訓練ヲ行ヒ其ノ思想的統一ヲ圖リ以テ政戰兩略ノ一致竝ニ官吏ノ再訓練ニ資スルコト
- 3、各省割據主義、官民對立ノ觀念ヲ打破シ軍官民ヲ通ズル舉國一

387



口、教育要領 講義、課題作業、相互討論批評、想定ニ基ク  
研究

ハ、教育科目 武力戦、思想戦、政略戦、経済戦其ノ他ノ戦  
力戦ニ必要ナル諸對策

ニ、研究所ノ機能整備ニ伴ヒ教育訓練スベキ者ノ範圍ヲ擴大シ  
若ハ講習會等ヲ開催スルコト

8、研究用圖書及資料購入費竝ニ研究及教育ノ爲トシテ歐米、南洋  
滿支方面出張ニ要スル外國旅費ヲ計上ス

9、研究所ノ開設ハ昭和十五年十月トシ之ニ關スル經費ハ第二予  
備金ヨリ支出ス

386

事務分担表

△印入者

事項	職員	所長	所員	事務官	助手	書記
統轄		一				
綜合			三		一	
武力戰			二		一	
政略戰			二		一	
思想戰			二		一	
經濟戰			三		一	
庶務			△一	一		三
計		一	一二 坤	十	五	三

389

研究及教育項目要領

- 一、將來戦ニ關スル綜合的研究
- 二、將來ノ武力戦ニ關スル研究
- 三、戦争指導ト政略トノ關係ニ關スル研究
- 四、戦争指導ト思想トノ關係ニ關スル研究
- 五、戦争指導ト經濟トノ關係ニ關スル研究

388



英帝國々防大學

一 設立、場所

一九二七年一月一日設立

倫敦市バツキングム、ゲート九番地

二 管理

海軍省管理下ニアリ總豫算ハ一九三四年七九四〇鎊、一九三五年  
六二六〇鎊（校長ガ陸軍ヨリ出タル爲夫レ丈ケ前年度ヨリ減ズ）  
ニシテ海軍省豫算ニ計上サル但シ右ハ實際ハ三軍各省等分ニ分擔シ  
陸、空軍分擔ノ分ハアプロプリエーション、イン、エイドトシテ海  
軍豫算ニ加ヘラル印度及自治領ハ分擔セズ 尙三軍以外ノ他省又ハ  
屬領ヨリ學生ヲ選出スル場合ハ一人當一八〇鎊ヲ納付ス

389

### 三 目 的

陸海空軍所屬壯年將校及各省官吏中將來國防ノ樞機ニ參畫スベキ有能ノ人物ヲシテ國防上諸般緊密ナル協調運籌ヲ保持セシムル爲國防ニ關スル事項ヲ廣ク研究セシムルヲ目的トス

(一) 元來英國ニハ陸海空軍共各參謀大學校ヲ有シ夫々其ノ學生中ニハ年々他軍將校ノ若干ヲ加ヘ正規ノ教育ヲ受ケシメ以テ三軍ノ協同動作ニ關シ教育ニハ充分留意シツツアリ更ニ三軍共同ノ一大學校ヲ設置シタルハ聊カ屋上塵ノ餘アルモ我海軍大學校ノ高等用兵研究將校制度若ハ我陸軍大學校ノ專攻科ノ如キモノヲ三軍共通ノモノトシ之ニ文官ヲ加ヘテ專ラ全英帝國國防ト言フ特定ノ研究ヲ行ハムトスルモノナリ

(二) 右設置ノ動機ハ當時三軍ノ統一乃至緊密ナル協同ニ關スル世上ノ批難多カリシニ鑑ミ且又一九二六年一〇月國防問題ヲ主題トス

ル全英帝國會議が開催セラレタル爲之ニ先立チ政府ガ本大學ノ開設ヲ決意發表セルモノト察セラル

(白) 目的動機ニ關シ傳ヘラルル所ハ概ネ彼上ノ通ナル所更ニ英國ニハ總動員機關ニ備シ平時存在スルモノナリシモ之ガ中央機關トモ目スベキモノハ樞密院内ニ存スルモノノ如ク又本國防大學ガ總動員ノ爲ノ最高指導要員ノ養成ニ當リ居ル節アリ  
米國ノ陸軍産業學校(海軍ヨリモ學生ヲ送ル)類似ノ目的モ併有スルモノノ如シ

#### 四 職員

(一) 校長 海陸航軍中少將 任期二ケ年

現校長ハメイジャージェネラル、アール、エッチ、エイニングナリ尙初代校長ニリツテモンド海軍中將任命セラレタルガ同中將ハ篤學ノ士ニシテ殊ニ陸海軍ノ協同作戰ニ經驗深ク又各種民地ニ關

シテモ相當ノ知識ヲ有シ最適任者ト認メラレタルニ依ル加フルニ  
全英帝國ノ國防ハ海軍ヲ主位トスル爲旁々海軍省ノ管理下ニ置カ  
レ初代校長ヲ海軍ヨリ選出セルモノナルベシ

□ 教官

三軍ヨリ大佐級各一名 任期三ケ年以内

他ニ大學教授、各省官更、學者、實業家其ノ他廣ク新道ノ專門  
家ヲシテ臨時授講セシム

現武官教官ハ

海軍 キヤプテン、エツテ、イー、ホラン

陸軍 ブリゲエヂイヤ、エル、カール

空軍 エヤー、コンモドアー、ダブリユーシヨルト、ドグラス

兵 學生

(一) 學生定員ハ約三十名トシ海陸軍ヨリ五乃至六名

392

空軍ヨリ四乃至五名何レモ大中佐級 時ニ少佐アリ

印度及自治領三軍ヨリ一乃至二名

大蔵、殖民、外務、印度、商務省等ヨリ交替

概ネ計二名

(二) 候補者ハ三軍大學校卒業者及有爲ナル官吏中ヨリ選抜試験合格者ヲ任命ス

六 教 程

一ケ年

七 授 講 課 目

政略、戰略、三軍協同作戰、財政經濟、通商、資源、供給、航運、  
通信、民間航空等

( 終 )

393

米 國 陸 軍 産 業 大 學

陸軍産業大學ハ一九二四年二月ノ軍令ニ依リ華府陸軍省ニ創設セラレ  
陸軍次官之ヲ管轄ス

イ、目 的

本校教育ノ目的ハ戰時全軍需品調辨ノ管理並戰時必要ナル材料及産  
業組織ノ動員ニ關シ適當ナル方法ヲ確立スル爲陸軍將校ニ對シ必要  
ナル教育ヲ行フニ在リ而シテ學生ノ課程ハ十箇月トス

本校ハ教官極メテ少數（昭和八年調ニテ校長ノ外教官四名）ナルモ  
部外ノ講師無報酬ニテ來講スル者多數アリ

學習ハ講義ヲ受クルノ外各種ノ研究問題ヲ授ヘテ個人又ハ委員ヲ以  
テ研究ス研究問題ノ數例左ノ如シ

調辨管區及其境界、機能、管理並産業ノ豫算統制、政府ノ豫算統

396



制

日、蘇兩國ノ經濟的、政治的、社會的趨向ニシテ産業動員計畫ニ  
資スヘキモノ

英、佛、獨、伊國ニ於ケル經濟資源ノ管理法

米國ノ重要産業ノ深刻ナル研究

産業戰ノ影響

世界大戰ノ經驗ニ鑑ミ労働ノ適切ナル調整

輸送、物價統制及軍需品ノ戰時調辨ニ資スヘキ主要各方面ノ能力

調査

國防計畫ニ於ケル經濟計畫

外國貿易ノ統制

金融統制機關

燃料及動力ノ保存

395

戰後ノ産業整理

口、學生ノ配當 總數五四名

航空兵	五
化學戰兵	三
通信兵	二
會計部	一
兵器部	七
工兵	四
海岸砲兵	二
野砲兵	二
步兵	二
軍醫部	二
補給部	一〇

396

海 軍 一五

學生ノ配當ナキ各兵科並部ハ軍務局ニ希望シ所長數ノ學生ヲ入校セ  
シムルコトヲ得

ハ、學生ノ資格

學生ハ左ノ各項ニ該當スルモノヨリ選定ス

（一）陸軍大學校ヲ卒業セル者若ハ同校ノ學生タル者

（二）統帥及參謀學校卒業者ニシテ而カモ卒業ニ當リ參謀道任職ヲ得  
タル者

（三）特殊ノ才能アリトシテ各兵科並部ノ長官推薦ニ依ル者

以上各項ニ該當スル他「優秀ノ成績」ヲ收メタル將校ナルヲ要ス

尙學生ノ年齢最大限次ノ如シ

中	尉	四〇
大	尉	四五

297

少佐	四九
中、大佐	五二

一九三三—一九三四年入學者總數五十八名ニシテ陸軍四十五、  
海軍十一、海兵二名ニシテ例年ニ比シ多數ナリ

二、卒業學生數（一九三二年度學年ヲ含ム）

三五四名

内海軍及海兵將校	三三
陸軍將校	三二二

398

「獨逸」國防大學（假稱）

獨逸ニ於テハ一切本施設ニ關スル公表ヲ  
ナシアラサルヲ以テ以下述フル所ハ何レ  
モ判斷ニ基クモノトス

- 一 所 在 伯 林
- 二 設 立 年 次 不 詳
- 三 校 名 不 詳
- 四 目 的 各軍大學校出身ノ大佐、中佐及大佐、中佐相當官ノ軍  
關係官吏中ヨリ有爲ノ士ヲ選拔シテ國家總力戰中軍ニ關係アル部門  
ニ關スル綜合研究ヲナサシムルニアリ
- 五 所 屬 國防軍總司令部直轄トス
- 註、（國防軍總司令部ハ我國ニ於ケル參謀本部、軍令部、陸軍省、

399

海軍省、航空本部等ヲ綜合セルモノナリ)

六 教育方法 現在ノ我國ニ於ケル陸軍大學校式方法ニ非スシテ以前ノ専攻科學生ニ對スル教育ノ如ク専ラ相互研究ニ據ラシム

「ナテス」黨上級指導者養成塾 (假稱)

一 設立 不詳

三 目的 獨逸國家組織中軍以外ノ部門即チ黨、行政組織全般ノ上、中級指導者ヲ養成シ、各部門ノ聯繫ヲ緊密ナラシメ且單一指導原理ニヨリ綜合團力ヲ發揮セシムルニアリ

註、(部長以上ノ官職ハ塾出身者ニ非レバ就任シ得サル規定アリ)

四 要員選拔ノ標準 「ヒットラー」學校 (初等) — 高等中學校 — 軍隊服役ノ三過程修了

400



者中軍人トシテ士官學校ニ殘ル者以外ヲ本塾（シユールンブルグ）ニ入塾セシム

塾、（「ヒットラー」學校ハ一般ノ「ヒットラーユーゲンツト」指導者學校ト異リ更ニ國家ノ中核タルヘキ人材ヲ養成スルタメニ存在スルモノニシテ毎年全日本各地區毎ニ最優秀者一、二名宛ヲ集メ千乃至三千名ヲ収容ス、而シテ其標準ハ體力、思想、能力ノ三者トス）

兵教育方法 塾ノ修了年限ハ四ケ年トシ各學年毎ニ異リタル遊地例ヘバ第一學年ハ「ミュンヘン」、第二學年ハ「フランクフルト」等ノ如ク、而モ都會地ヨリ遠ク隔リタル山中、湖邊等ニ所在スル遊舎ニ於テ教育ヲ施ス

課業

早朝起床禮拜、宣誓

1001

午前五時ヨリ學科

午後 「スポーツ」

學科ハ講義ヨリモ相互ノ討論、研究ヲ主トシ各班ノ指導者タル「ナ  
チ」黨幹部ガ最後ニ判決、時評ヲ與ヘル

「スポーツ」ハ運動競技凡ユル種類ノ外飛行機、「グライダー」自  
動車等ノ操縦ニ亘リ何レニ就イテモ或ル基準ニ達セサル種目アル學  
生ハ退塾セシメラル

602

佛國ニ於ケル高等國防研究所

高等國防研究所ハ一九三六年八月十四日附大統領令ヲ以テ創設セラレ  
同年十月十五日講習ヲ始メタルモノニシテ其目的トスル所ハ陸、海、  
空ノ三軍共ニ高級將校並參謀將校ノ養成ニハ久シキ以前ヨリ夫々大學  
校、高等軍事研究所等ヲ設置シ努力シアリト雖三軍ハ勢ヒ自己ノ領域  
ニ割據シテ全般的ノ研究、三軍間ノ連絡十分ナラス一方國家トシテ國  
防政策ノ決定及之カ指導ノ爲ニハ單ニ軍部三省ノミナラス他省（外務、  
大藏、殖民、文部、土木省ノ如キ）ノ協力ヲ必要トシ其範圍ハ廣大ナ  
リ

茲ニ於テカ陸、海、空軍ノ優秀ナル將校並關係各省ヨリ若干ノ文官ヲ  
集メ單ニ戰略的專項ノミナラス戰爭指導ニ影響ヲ及ホスヘキ財政經濟、  
思想等ヲモ研究シ平戰兩時ニ於ケル準備ト協同トヲ容易ナラシメント

903

スルニ在リ

本研究所ノ講習期間及聽講生ノ數ハ左記條令ニ示ス如ク毎年聯合省令ヲ以テ定メラルルモノニシテ例ヘハ一九三八ト三九年度ノ爲ニハ五箇月半ノ期間トシ聽講者ハ陸軍將校（若ハ文官）十名、海軍、空軍將校（若ハ文官）夫々五名トセル如ク通常期間ハ五箇月、人員ハ二十名内外トス

其條令左ノ如シ

高等國防研究所條令（大統領令）

（一九三六年八月十四日附發布）

第一條 高等國防研究所ヲ創設ス、本研究所ハ戰爭ニ對スル國家的準備ニ起因スヘキ一般問題ノ綜合的研究並陸、海、空三軍ノ指導ニ關スル研究ヲ行フヲ以テ目的トス

第二條 右目的達成ノ爲高等國防研究所ハ左記二種ノ教育ヲナス

400

イ 將校及文官ヲシテ政治、財政、經濟、人口問題等ニ關スル一般事項ヲ平時並戰時ニ於ケル國防ト關係ヲ有スル範圍内ニ於テ熟知セシムルヲ目的トスル一般教育

ロ 國家的作戰ノ問題ト之ヲ確定スヘキ各般ノ問題トヲ關聯セシメツツ被討スヘキ軍事教育

第三條 本研究所ハ教育會議 (CONSEIL DE PERFECTIONNEMENT) ニ依リ統轄セララル

教育會議ハ國防常設委員會ノ代表タル陸、海、空軍參謀總長ヲ以テ構成セララル

又文部省高等教育局長モ本會議ニ參與ス

第四條 本研究所長ハ通常陸、海、空軍參謀官タル將官中ヨリ順次任命セララル

而シテ研究所長ハ他ノ二軍ヲ代表スヘキ二將官ニ依リ輔佐セララル

5005

研究所長及其二輔佐官ハ海軍及空軍大佐ノ提案ニ基キ國防兼陸軍大臣之ヲ任命ス

第五條 研究所長ハ國防常置委員會ニ對シ本研究所ノ教授ニ任セラルヘキ將校及文官ニ關スル必要ナル總テノ提議ヲ爲ス又研究所長ハ國防常置委員會ノ指示ニ基キ其業務計畫ヲ立案シ之ヲ同委員會ニ提出ス

第六條 本研究所ニ於ケル候補者ハ各軍高等軍事研究所ノ課程ヲ修メタル陸、海、空軍大佐又ハ中佐及右相當官タル軍島ナルヲ本則トシ各軍參謀總長ノ提議ニ基キ國務各大臣之ヲ指定ス  
指定スヘキ將校ノ數ハ毎年聯合省令ニ依リ定メラル、研究所ニ分遣セラルタル將校ハ各々其固有ノ大臣ニ隷屬スルモノトス  
內務、外務、財政、文部、國家經濟、土木、商業、農林、海陸、遞

406



信大臣亦各々本研究所ニ職務スヘキ一官吏ヲ任命スルモノトス之カ  
爲國防兼陸軍大臣ノ承認ヲ得ルヲ要ス

職務ヲ命セラレタル將校及官吏ノ名簿ハ國防兼陸軍大臣ニ依リ官報  
ニ公表セラル

第七條 研究所ノ起程開始時日及其期間ハ國防兼陸軍大臣之ヲ定ム

第八條 研究所ノ編制及管理行政ハ國防兼陸軍大臣ノ責任トシ同大佐  
ハ省令ニ依リ其細部ヲ規定ス

第九條 研究所ノ編成及運用ノ爲ニ要スル經費ハ國防兼陸軍省歳算ニ  
依リ支出セラル

第十條 國防兼陸軍、内務、外務、財政、海軍、空軍、文部、國家經  
済、土木、商業、農林、殖民、逓信大臣ハ各々本令施行ノ細部ヲ擔  
任スルモノトス

409

閣下第三七二號

案	昭 和 十 五 年 八 月 三 日	裁 可	昭 和 十 五 年 八 月 三 日	施 行	昭 和 十 五 年 八 月 三 日
---	---	--------	---	--------	---

內閣總理大臣

內閣書記官長

內閣書記官

昭十五年八月三日

內閣書記官長

法制局長官宛

依命通牒

今般內閣別紙要綱一依總力

408

戰研究所ヲ設置致度ニ付  
閣下勅令案起案上申相成度

907



總力戰研究所設置ニ關スル件

近代戰ハ武力戰ノ外思想。政略。經濟等ノ各分野ニ亙ル全面的國家總力戰ニシテ第二次歐洲大戰ハ本特質ヲ如實ニ展開シ支那事變ノ現段階モ亦カカル様相ヲ呈シツツアリ皇國カ有史以來ノ歴史的・一大轉換ニ際會シ庶政百般ニ亙リ根本的刷新ヲ加ヘ萬難ヲ排シテ國防國家體制ヲ確立センカ爲ニハ總力戰ニ關スル基本的研究ヲ行フト共ニ之カ實施ノ衝ニ當ルベキ者ノ教育訓練ヲ行フト必要ニシテ此ノ事タルヤ延テ政戰兩略ノ一致並ニ官兵再訓練ニ貢獻スルコト尠カラスト認メラル依テ左記要領ニヨリ總力戰研究所ヲ設置シ總力戰態勢整備ノ礎石タラシムルコト現下喫緊ノ要務タリ

4/10

記

- 一 總力戰研究所ハ國家總力戰ニ關スル基本的調査研究ヲ行フト共ニ總力戰實施ノ衝ニ當ルベキ者ノ教育訓練ヲ行フヲ以テ目的トスルコ

- ト
- 三 總力戰研究所ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬スルモノトスルコト
  - 三 總力戰研究所ハ所長（陸海軍將官又ハ勅任文官）竝ニ所員若干名ヲ以テ構成シ各廳竝ニ民間ニ於ケル優秀ナル人材ヲ簡拔スルコト
  - 四 研究員ハ差當リ文武間及民間ヨリ簡拔シタル者若干名ヲ以テ之ニ充テ其ノ教育期間ハ概ネ二年トスルコト
  - 五 研究所ハ至急之ヲ開設シ尙所員ヲ以テ總力戰ニ關スル基本的調査研究ヲ行ヒ昭和十六年度ヨリ研究員ノ教育訓練ヲ實施スルモノト豫定スルコト
  - 六 本件ニ關スル經費ニ付テハ適當ナル措置ヲ講スルモノトスルコト

411